

1563

佐世保鎮守府

海軍擴張費建築工事着手順序

備考
 同番号之事着手順序ハ鎮守府ニ於テ適宜定ムルモトス
 既ニ着手ノ工事ハ本書ノ順序ニ拘ハラズ 後功セシムルモトス

着手順序 目 節

既設鎮守府増築費

佐世保鎮守府
 豫備艦部及豫備庫

豫備艦倉庫

内

三	三	四	四	四	四	四	四
棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟
						非 攸 艦 倉 庫	端 艇 庫

毎

一	四	一	四	一	三	三	一	一	四		二	四
第三倉	第三船渠唧筒場	機械工場建塙	造船工場端船格納場	造船材料倉庫材料庫	第二船渠	第二倉	第一水雷艇船渠	第三船渠	第二船渠	佐賀府 造船部	軍港電燈	四材庫
												治 軍

二	二			四	一		二	一	四	四	四	
一	一	内	火	彈	大	武佐世保鎮守府庫	測器格納庫	測器	E	D	C	A
棟	棟		藥	丸	砲			庫	号	号	号	号
			庫	庫	庫							

治
軍

		四	四	四		五	四	三		三
	内 預火薬庫	一棟	一棟	一棟	内 豫備艦兵器庫	一棟	一棟	一棟	内 彈藥包庫	一棟
毎 頁										

		二	一			四	一	一	二	二	四	二
内	豫備艦火薬庫	一棟	一棟	内	危険物庫	雑器庫	火薬綿火薬試験所	兵器検査所	火薬庫番兵舎	火薬出納所	一棟	一棟
												計
												算

1570

	一	四	三		四	四	四		四	四	四		
	預 兵 器 庫	一 棟	一 棟	内	預 危 險 物 庫	一 棟	一 棟	一 棟	内	豫 備 艦 危 險 物 庫	一 棟	一 棟	一 棟
毎 頁													

	—	—	—	—			≡	≡	≡	≡		
	—	—	—	—	内	石炭	—	—	—	—	内	需品
	棟	棟	棟	棟	庫	庫	棟	棟	棟	棟	庫	庫

毎
頁

一	三	二	二	一	三	四	三	一	一	一
物	禁銅室	澎湖島石炭庫	物品検査所	氣菱油庫	護謨庫	還納品庫	薪炭並石炭庫	油庫	棟	棟
干	佐世保鎮守府 海兵衛國	佐世保鎮守府 監獄								

海軍

一	一	四	一	一	一	一	四	五	一	一	
對馬水運隊水道新設	佐世保水道増設	佐世保鎮守府水道工事	佐世保鎮守府水雷敷設船塢圍場	事業場	倉庫	附屬廊下便所	兵舎	彈藥包庫	火藥庫	全便所移轉	輕砲臺移轉

海

軍

四		二噸起重器	
	内		
		起重器及運搬車等	
四		鐵道用	
	内		
		橋梁	
四		諸倉庫用	
	内		
		鐵道	
四		練兵場	
四		武庫	
五		海兵團	
	内		

毎
頁

一		本部及兵舎其他共	
一	竹藪水雷隊	乙衛所ヲ除ク	
一	一ヶ所		
	内		
一	乙衛所	四ヶ所ヲ除ク	
一	兵舎其他共		
	長崎水雷隊		
一	本部及兵舎其他共	乙衛所ヲ除ク	
	佐世保水雷隊		
	水雷隊建築費		
一	造船部境界地買上		
一	前畑火薬庫敷地		
二	赤峯火薬庫敷地		

計

員



四	一		四	一	三	四	一	一	一	二	二	二
望屋久 椽島間	神鹿 見島 崎間	陸上 電信	先花 崎	大島 東岸	大島 與那 可嶽	屋久 島	神 崎	佐多 岬 望 椽	大瀨 崎 望 椽	野母 崎 望 椽	韓崎 望 椽	神崎 望 椽

目録

軍務局

1587

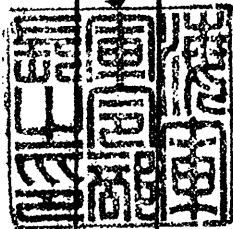
官房八二四

海令 七号二

官房第 二四号ヲ以テ御照會相成美望
樓建設順序之美ハ左記之通ニ改正相
成様致度將又電信線之ニ准シテ架
設相成事ニ致度右及法圓成美也

明治三十一年二月十四日

海軍々令部長子壽伊東祐直



海軍大臣子壽西郷道雄

尻矢崎

大島山東山序

大王崎

二

毎

頁

出淵

出淵

出淵

ラ フ イ 崎 三	越 前 崎 三	鴉 泊 崎 二	都 井 崎 二	彈 崎 二	舟 作 崎 二	津 波 崎 二	經 ヶ 崎 二	澤 崎 一	尾 崎 一	龍 飛 崎 一	神 崎 一	室 戸 崎 一 <small>三十一 年</small>
-----------------------	------------------	------------------	------------------	-------------	------------------	------------------	------------------	-------------	-------------	------------------	-------------	--

江

身

美保、須崎 三

アトイ、中崎 三

子那可崎 三

神威崎 三

犬吠崎 四

屋久崎 四

先花崎 四

惠山崎 四

金華山 四

納沙布崎 五

狼煙崎 五

室蘭 五

御前崎 五

毎

頁

襟裳崎五

宗谷崎文

道ヲ手那可崎以下十三ヶ所ニ現ニ燈台一所
在地ニシテ戰時望樓應急設置ノ見込也
有之ニ付電信線火ノ可成東ニ完成ノ様
致度此致申添候也

海軍

八二四

主事



浄寫



校合

發付局

二月十日

三十二年二月九日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長



軍事課長



主任課長



案

將來建設スルキ別記爲建機中ニ豫算金額ニテ
 到府其完成スルカニ分セ可有之ニ存候分籍急
 應シ建機著目ニ申ス度執事別記爲建機中
 建設ニ省スルキ籍急順序ニ見セヨ旨
 毎
 宣

								海邊樓 建築費
								望樓
金	惠	竜	神	大	大	神	尻	既設望樓増築
華	山	飛		吹	戸	威	矢	
山	崎	崎	崎	崎	崎	崎	崎	
三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	一、八八〇
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇
右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	番倉十一ヶ所
								望樓及附屬建物三千四 敷地買上及土工五百円
								要

毎

宗	ア ト イ ヤ	美 保 関	ヲ フ イ	襟 裳	越 前	鶴 泊	都 井	室 蘭	狼 烟	浅 碧	経 崎	納 沙 布 崎
谷	崎	崎	崎	崎	崎	崎	崎	蘭	崎	崎	崎	崎
三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇
右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全

望樓及附屬建物 三千内
 敷地置上及土工 五百内

古神威 平崎間	七皆月 尾間	田尻名 郡間	陸上電信	彈澤 崎	先花 崎	天島東岸	大島那可 崎	屋久島	籠作 崎	尾崎	御前 崎
一、五〇〇	五、一〇〇	三、〇〇〇		三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇
〇	〇	〇		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
五里	十七里	十里		右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全	右全

母

那	光	名	大	名	典	望	屋	能	腫	宮	尾	相	御	稚	宗	根	松	美	増	マ	帽	襟	武	越
花	島	東	可	久	下	雨	谷	イ	ヤ	保	イ	裳	前											
霸	崎	瀬	崎	崎	島	代	崎	古	崎	良	崎	内	崎	室	崎	江	関	毛	崎	泉	崎	生	崎	
間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間

九	三	三	一	一	一	九	三	一	一	三	一	一	一	一	一	一	三	一	一	一	一	一	一
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三	十	十	五	四	三	三	七	三	三	十	五	四	七										
里	三	三	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里

毎

海防



軍務局

供覽

總理局

第三課

1599

九尺

海防二二二二



軍務局



長官

官分第九の八種ヲ以テ其照會を以テ
其の雷隊中建設に手合ハ其如クシテ可
能計畫ノ事方ニ該正も探査等々
及同子等兵也

一 森鶴水雷隊

水雷砲台廢止并此隊の并建設費
補給に計圖し手合内ニ完済ス

一 門司水雷隊

水雷艇船渠ノ建設ニ後年ノ備に力成
ハ之ヲ引揚船台ニ改メテ陸揚スル
減に計圖し手合内ニ該正スルヲ要ス

一 由良水雷隊

三

毎

軍

海軍

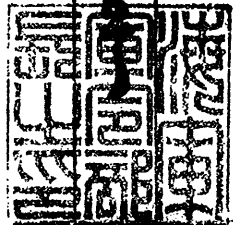
六ヶ所ノ水雷砲台ヲ二個ニ減シタルハ故
残リ四ヶ所ノ砲台并ニハカモ設ケ其ニ備
ヒ計畫書トシテ各回ノ議ニスルヲ要ス

一 大湊水雷隊

豫算并、概算ニテ一七〇年位建設ニ年
交リ延期スルニ至ルモ又ナシ

明治三十二年二月廿六日

海軍大臣青木子爵伊東祐



海軍大臣青木子爵伊東祐

九八

主事



浄寫

校合

發付

二月廿

三十一年二月十六日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長

軍事課長



主任課長

照會案

將來建設スヘキ電記水雷隊中ニ豫算金

額ニテハ到底蒸成スヘカラサル分元同有之被存候

緩急ニ應ヒ漸次着手ニ申シ度度計

中ニテ建設ニ着手スヘキ緩急順序ニ御見込函

毎

頁

九八

主事



浄寫

校合

發付
局

二月廿

三十一年二月廿六日

主務

立案者

大臣

次官



軍務局長

軍事課長



主任課長

照會案

將采建設スハキ
願ニ至ル底迄
緩急ニ應ジ漸次著手スルニ決度
中ニ建設ニ著手スハキ
緩急順ニ
記水雷隊中ニ豫算金
同有之被存候

毎

頁

致置度此假及御照會候也

明治三年二月十七日

軍務部長

大石

江

軍

舞鶴水雷隊

門司水雷隊

由良水雷隊

大湊水雷隊

ソ